

11月6日は『長崎・坂のまちの日』

11月6日は、1989年(平成元年)に長崎市で開催された「国際斜面都市会議」の最終日に「長崎アピール」宣言が行われた日です。私たちNPO法人長崎斜面研究会は、この日を「住民発“長崎・坂のまちの日”」と制定します。

■制定理由

「国際斜面都市会議」がきっかけとなり、長崎市においては、平成2年以降、斜面市街地整備計画・整備事業が、十善寺地区、江平地区、稲佐・朝日地区、北大浦地区、南大浦地区、水の浦地区、岩瀬道・立神・西泊地区、立山地区で進められてきました。

当研究会は、平成9年(1997)10月に『どの様に老いても、どの様な障がいをもって、住み慣れたところで安心して暮らしたい』という思いに駆られ、医療・保健・看護・福祉・機械・土木・建築・行政の各専門職や自治会関係者が集まって設立し、外出支援活動・生活環境改善の支援活動・研修や研究活動・交流事業・広報活動・坂のまち体験や出前福祉講座などを通して、高齢者・障がい者等が暮らし続けるための支援活動に取り組んできました。しかし、坂のまちでの暮らしの継続への有効な手立ての確保までは至っていません。

そこで、私たちNPO法人長崎斜面研究会は、11月6日を「住民発“長崎・坂のまちの日”」として制定し、そして、港を囲む100万ドルの夜景を生み出した灯＝「坂のまち」の暮らしに、今一度、市民の眼差し向ける機会にすることが記念日制定の目的です。

■制定記念事業

「長崎・坂のまち記念日」を挟む1週間を「坂のまちウィーク」として、毎年「坂のまち」をキーワードとした記念事業の開催などで、坂のまちに暮らす人々はもちろん、その暮らしに関係するあらゆる分野の人々と共に、情報を共有しながら、それぞれの活動・研究・事業が、地域に根ざした実践的で多面的で、かつ、連携した諸活動に展開することによって、継続できる「坂のまち」の暮らしづくりへの歩みを進めていくことがこの事業の目的です。

NPO法人長崎斜面研究会

理事(50音順)

石松隆和(長崎大学工学部 教授)、伊豆永浩志(医療法人 清潮会三和中央病院 医師)、岩本龍仁(社会福祉法人 長崎リハビリテーション 理学療法士)、扇谷保彦(長崎大学工学部 准教授)、かくくこ(NPO 法人市民後見の会 ながさき 理事長)、川崎涼子(長崎大学医学部 助教)、木下元洋(一般社団法人 長崎県労働基準協会本部 講師)、栗原正紀(社団法人 是真会 長崎リハビリテーション病院 理事長・院長)、黒岩恵(株)恵夢工房 代表取締役)、近藤広志(社会医療法人 春回会 井上病院 地域外郭団体担当)、杉山和一(長崎大学環境科学部 准教授)、辻村友子(デイサービス虹 看護師)、角町正勝(角町歯科医院 院長)、中尾理恵子(長崎大学医学部 准教授)、二宮誠(株)長崎かなえ 代表取締役)、馬場正勝(介護ショップ タスカル 代表)、兵働眸(社会福祉法人 十善会 十善会病院 理学療法士)、平野啓子((有)長崎建築社 一級建築士)、松坂誠應(長崎大学医学部 教授)、三浦隆(北陽つんなむ会 会長)

監事(50音順)

茂地徹(長崎大学大学院工学研究科 教授)、濱中洋(株)ニーテックハマナカ 代表取締役)